

社内研修をより効果的に行う には

- 事例から得た動機付け、研修成果を高めるヒント -

2005年10月13日

オリンパス(株) 岩見 好博

(株)アルゴ21 芥 博通

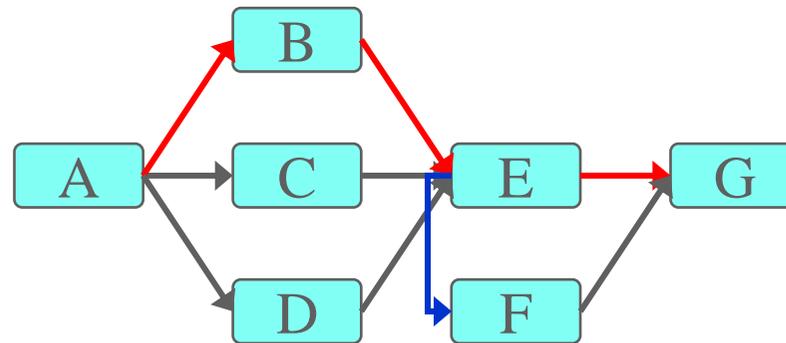
はじめに

- 受講者および組織のニーズに適った、成果の上がる社内研修を目指して試みられたプロジェクトマネジメント研修の事例
- "One Hour Lesson"と称する短時間の日程計画管理の実践研修である。



研修実施の経緯

- 開発プロジェクトで日程計画管理に問題が目立つためシニアマネジメントから「日程計画管理の強化」が求められた
- これを受けた開発現場には日程計画管理の知識、スキルが十分でない
- PERT/CPM研修を実施することに



「PERT/CPM実践講座」概要

- 研修内容と時間は以下のとおり
 - 講義(日程計画の難しさ、PERT/CPM概説) 40分
 - PERT演習 15分
 - ツールと書籍紹介、Theory of Constraintの概説 10分

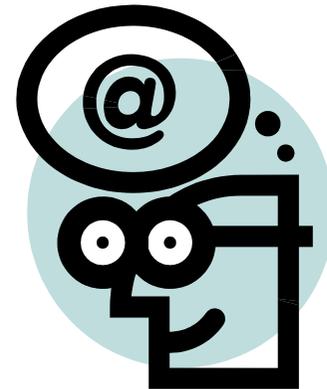
- 情報システム部門と関連部門を対象に実施した
 - 約150名、14回(3回はプレ研修)

研修での工夫

- 希望者向けのプレ研修
 - 研修・演習内容の妥当性を確認後、全員への研修を実施
- 短時間(1時間)
 - 忙しい(だからこそ受講すべき)メンバーも受講できる
- 演習
 - 日程計画・管理の考え方や姿勢を理解してもらえる内容に
- 15名以内の小クラス
 - 研修内容の理解度を、演習で回答を出すまでのチーム活動状況を小まめに観察できる

結果

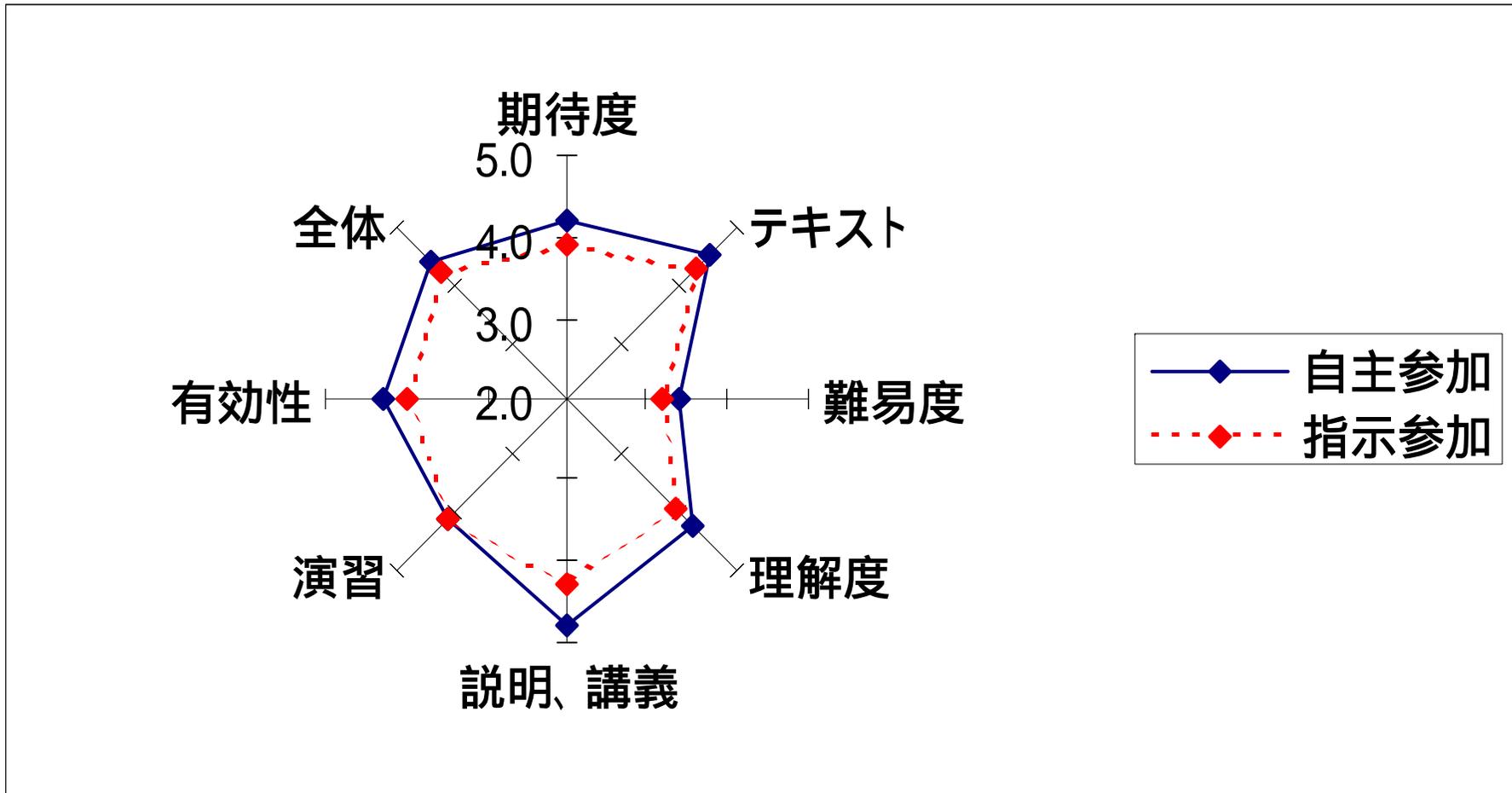
- 短時間なので対象者のほぼ全員が受講
 - 職制から受講を指示
 - 受講率 95%
- すぐに開発日程計画管理に使いたいとの前向きな意見が多かった
 - 思ったより簡単なんだ
 - 実際に使い始めたチームも
- この研修がきっかけでPMBOKを学習し、レポートを書いた受講者も
 - PMBOK2004を自習



結果(2)

- 演習への取組み
 - 正解を求められる演習には拒否反応
 - 「作成した日程計画が実行できれば正解」としたので拒否反応はなかった。
- プレ研修と本研修受講者アンケート結果比較
 - 研修に対する評価には大きな差がなかった。
 - プレ研修受講者のほとんどが積極的な意見、コメントを書いていた

受講アンケート結果まとめ



考察

- 現場の垢にまみれていない新人ほど理解早い
 - 一番妥当な答えを出したのは入社2年の女性
 - 「鉄は熱いうちに打て」
- PERT演習で受講者の理解度がよく分かった
 - 演習チームの間を歩き回って観察
 - メンバーの役割をまず決めたチームほど、よい回答に
- チーム全員が同じ研修を受けることで、実践への環境が整う
- 詳細な理論ではなく勘所を要領よく伝えれば、1時間あまりの研修でも非常に効果が出る

課題

- ワークショップ開催
 - 研修だけでなく、具体的な開発テーマの日程計画を実際に作成
 - スキルの定着を図る
- 講師の育成
 - こうした「気付き」を与える短時間の研修コースを増やしていきたい。
 - しかし、研修を準備・実施できる講師人材が少ない

